



家庭数

芦花小学校PTA会員の皆さま

28年度テーマ  
親から変わる前向きな子育てを

世田谷区立芦花小学校  
PTA会長  
文化厚生委員長  
文化厚生副委員長  
文化厚生委員

第3回 家庭教育学級 報告書

『考えてみよう、親子の関わり方』



保護者の皆さまにはご健勝のこととお喜び申し上げます。子供たちの健やかな成長のため、本校PTA活動に際しまして、皆さまのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

11月12日(土)に第3回家庭教育学級を開催しました。講師に日本スクールソーシャルワーク協会会長の長俊介先生をお迎えして、『親子の関わり方』についてお話しいただきました。

スクールソーシャルワーカー(SSW)とは、スクールカウンセラーと並び、子供の問題解決にあたるお仕事です。

“課題を抱える子供最善の利益を実現する”の理念に立って、家庭や学校の支援をされています。

思春期を迎える前の難しい年頃になる子供たちを持つ親として、家庭においてどのような親子関係を築けば良いか、問題があったときの子供からのSOSに気付くためには、学校との関係は・・・などについてのお話を伺いました。

カウンセラーとの違いとは？

子供と相対し、本人の悩みから解放してあげるのがカウンセラーですが、SSWは家庭や学校に出向き、子供の話を聞いてストレスの原因を探り、ストレスとの関係性を改善しながら周りの環境も改善することを目的としているそうです。

子供は宝～味方になる大人がいるシステムをつくりたい～



長先生の活動に密着をしたNHKの番組を拝見し、先生の講演は始まりました。

先生は35年間の活動の中で、「家庭内暴力」「不登校」「いじめ」「学級崩壊」「引きこもり」をたくさん見てこられたそうですが、例えどんなにつづっていても言葉が少なくても、子供は裏切らないと感じたそうです。

学校の先生でもなく、家族でもなく、子供の目線に立って子供の意見を聞ける大人が必要！

SSW活動のきっかけはこの思いだったそうです。

親として～先生にお伝えいただいたメッセージの一部より～

- ・子供自身が持っている「壁を乗り越える力」を引き出す。子供の中に答えはある。
- ・不登校の理由は？と聞かれることが多いが、「理由はない。」  
→きっかけはあるがそれが原因ではない。
- ・子供を信じる心。宝物であると伝えること。
- ・親の方針がコロコロ変わるの良くないこと。家のルールを設けたらそれを守らせるべきである。

- 子供に法律や建前は通用しない。あくまで当事者として接すること。「自分（親）」がどう思うか？
- 子供の味方になれる大人を作る。
  - 受け皿を作りたい。近所の方、親戚の方、友人、etc
  - 子供の苦しさに気付けない大人がいけない。
  - たくさんの大人が子供を受け止めてあげてほしい。
- 子供は守り育てるものである。見守る気持ち、サインを読み取る気持ちが大事。
- つらい時にそばにいた大人が受け止めてあげられれば自死は減る、止められる！誰でも命は救える。



☆講演を聴いて☆（皆様の感想より抜粋）



- SSWのことに知ることができてよかった。
- 何もなかったが一番だが、今後もし煮詰まってしまったときに、助けを求めることができる場所があるのだと心強く思った。
- 先生の『子供は宝』という言葉が心に残った。
- 先生のお話をぜひ子供たちにも聞かせたいと思った。
- 先生の経験から率直なお話を聞いて、子供の力をもっと信じてみようと思った。
- 我が子も学校に行きたくないということで毎日の対応の仕方でも悩み葛藤していたが、全て親のせいではなく、子供は子供の道をいくという言葉に救われました。
- 子供のことも自分のことも大切に、責めすぎず、ずっと子供に向き合っていけるよう共に成長していけたらと思った。とても心が救われたので、またその気持ちがなくなりそうな頃お話を伺いたい。
- 子供は子供自身の人生をしっかりと生きていける力を持っているということを再確認できた。
- 思春期のことについてももっと詳しくお話を聞きたかった。



### OSSW とは？

スクールソーシャルワーク。訪問教育相談。非行、登校拒否などの問題に直面する子供たちを、学校と家庭のパイプ役になって支えるシステム。1900年代初めに米国で誕生し、日本でも導入が進められている。そのような支援に携わる専門家のことをスクールソーシャルワーカー（SSW）という。

日本ソーシャルワーク協会

<http://www.sswaj.org/index.html>

### ○長俊介先生

日本スクールソーシャルワーク協会会長、杉並区富士見丘中学校学校運営協議会会長、NPO 法人修復的対話フォーラム副理事長。1981年からお自宅を開放し、さまざまな困難を抱える子供たちと過ごす。通える子は自宅の教室で、通えない子は訪問サポートして35年になる。

mail: [csyun@d1.dion.ne.jp](mailto:csyun@d1.dion.ne.jp) ☎先生へのご相談はこちらへ（なおご相談にあたっては所定の相談料がかかります）



☆今回の報告書をおもちまして今年度の文化厚生委員会の活動は終了いたします☆  
 ☆PTA 会員の皆様にはご協力いただきまして誠にありがとうございました☆  
 ☆来年度も引き続き文化厚生委員会の家庭教育学級をよろしく申し上げます☆